

30年の歴史・700万世帯視聴・ 中国+韓国などへの国際展開!

倉元健児

Kuramoto Kenji

(株)囲碁将棋チャンネル 代表取締役社長



韓国「龍星戦」開幕式で挨拶する倉元健児・囲碁将棋チャンネル代表取締役社長

■将棋対局を年間100本以上生中継

囲碁・将棋チャンネル(本社:東京都千代田区/代表取締役社長:倉元健児)は、日本全国の約700万世帯でご視聴いただけるチャンネルとして、放送開始の1991年から30年以上経過しました。これもJCOM様をはじめ全国350局のケーブルテレビ様、スカパー様、NTT様へ改めまして感謝を申し上げます。

昨今の藤井聡太八冠の活躍もあり、2022年より将棋対局数(完全生中継)を年間100本程度へ拡大しました。実は単純に「生中継番組を増やします」ということは難しく、基本的に対局相手の「段位上位者」の所属地(地元)で対局を行うという決まりがあり、次の生中継の場所が決定するのは現在の対局結果が出てからでないと準備ができないため、当初はそれがネックとなり次の体制を組むことがとても困難でした。いまは現地・自社スタジオ・スタッフの体制を見直すことにより対応しております。

■好評な「AI形勢判断表示」

また2022年度からテレビ画面上に「AI形勢判断表示」を開始し、一手毎に対局勝率が表示されるのですが、将棋や囲碁に詳しくないライト層からもとても高い支持を頂いております。そして来る2024年1月から3月に



2022年の王将戦七番勝負の様子。羽生善治 vs 藤井聡太の名対決場面

けて行われる「第73期 王将戦七番勝負」藤井聡太王将と挑戦者の対局は、もちろん全局生放送を予定しており、「王将戦みるなら囲碁・将棋チャンネル」と思っていただけの番組編成を目下準備中です。

そして2023年1月より開始したインターネット配信サービス「囲碁将棋プラス」では、スマートフォンやタブレットなどで気軽にお楽しみいただけるサービスとして、多くの方にご視聴いただけるようになりました。

現在、オリジナル番組や対局の「いいとこ取り」のダイジェスト版などを配信し、ご好評をいただいています。今後、より多くの方にご活用いただけるよう、囲碁や将棋コンテンツのほかに、麻雀・グルメ・旅・トークショー番組など、コンテンツ拡充を計画しております。

■世界囲碁人口3600万人に注目

さらに国外での展望としては、囲碁の事業拡大に挑戦していきます。最近、仲邑菫女流棋聖が武者修行で韓国棋院への移籍を発表し、囲碁界が話題となりましたが、世界の囲碁人口は3600万人以上といわれており、巨大なマーケットとなっています。その中で、中国と韓国が国際棋戦で活躍する棋士を多く輩出し、競技としても非常に人気があります。現在、囲碁将棋チャンネル主催の囲碁棋戦「中国龍星戦」と「韓国龍星戦」を、それぞれの国でも放送し、中国棋院と韓国棋院と友好な協力関係を結んでいます。両国での事業進出の足掛かりはできており、今後更なる事業拡大に向け準備を進めています。

